



りんりん通信

～ No.124～

2022.1月発行

りんりんの会
(乳がん体験者の会)



* 凛(りん)として 自分のために・輪(りん)として 仲間のために・鈴(りん)として 社会のために *

あけましておめでとうございます！

雪景色の中、新たな年明けに送られてきた年賀状を 1 枚ずつ読みながら、穏やかなお正月を迎えられた方も多かったのではないのでしょうか。今年はどうなるのか、不安もあり、期待もあり・・・。

自分の年齢も確実に重ねてきてはおりますが、2004 年にスタートした「りんりんの会」も何と今年で 18 年目を迎えることが出来ました。「継続は力なり！」正にその言葉が胸の奥深くまでひびくような RinRin の長年の歩み！

ここまで一緒に歩いて来て下さった会員の皆様や医療者の方々の温かいサポートに、あらためて感謝しなければ・・・と思っています。ここ 2 年ほどは活動もままならない日々を過ごしておりましたが、どんな状況下に置かれても、当初の思いを忘れず、皆様と一緒に、これからも変わらずに様々な形での支援活動を続けていこうと考えています。

今後ともご協力・ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



●りんりん定例会 再開のお知らせ●

～2022.1月～3月の予定～

【予定変更のお知らせ】
コロナ感染者急増により、
1/15 の定例会は中止
の決定を致しました。



2/19・3/26 の定例会については、
参加希望の方、事前に電話か
メールで確認をお願いします。

~~1/15
(第3土)~~

2/19
(第3土)

3/26
(第4土)

* 開催場所
大崎市図書館 2 階研修室 1
* 開催時間：10:00～12:00
* 開催内容
情報交換会・交流会・相談会

- 事前予約制(※人数制限あり)
→ りんりん携帯にご連絡 **090-6259-9205** (金・土・日対応可能)
メールでのご連絡 strinrin320@gmail.com
- 参加費・・・無料
- 参加対象・・・乳がん体験者・ご家族・医療関係者
※ 会員以外の方・大崎市民病院以外に通院中の方でも参加可能です。
- コロナ感染症対策～手指消毒・マスク着用・連絡先の記載(非公表)等のご協力をお願いしています。
※ 大変申し訳ありませんが、予約状況により、お断りさせていただく場合があります。
※ 今後の状況により予定変更・中止もありますのでご了承願います。

ひとりじゃないよ！仲間がいるよ！
小さな不安が大きくなる前に、
一緒にお話ししてみませんか？





医師の働き方改革

大崎市民病院 乳腺外科科長 吉田龍一

近年、医師の働き方が問題となっています。つまり長時間労働が当たり前の世界で、労働基準法が守られていないとの指摘です。私自身研修医の頃、医師には労基法は適応されないだと聞いていました。実際は医師の職業の特殊性から見過ごされてきただけで、本当は医師も労基法に則り労働時間制限を守る義務があります。

自分が研修医の時はどうだったか振り返ってみますと、以前も書きましたが、眠い目をこすりながら6時半には家を出て病棟の担当患者（常時10～20人）の傷の手入れ、その日の指示（点滴や検査）を出し、8時から抄読会。抄読会とは英文の医学論文を翻訳・要約して発表し質疑応答に答えるものです。勉強会ですね。週1回はその準備のため前日徹夜でした。抄読会のあと手術。最低でも連続2件、場合によっては夕方まで手術室から出てこれないことも。その場合は昼食抜きですが、たいがい朝も抜いているので、トイレに行きたいとも思いません。手術が終わってから、その日の入院患者全員を回診し所見をまとめカルテに記載して取りあえず終了。だいたい早くても7時頃でしょうか。患者の状態次第では仕事の終わりが午前様になることも珍しくありませんでした。病棟が落ち着いていれば（急変がなさそうなこと）、飲みに行ったりしましたが、飲んでる最中にポケベルで呼び戻されることもしばしばあり、また、飲んだあとも病棟に行って患者の状態を確認してから帰宅していました（帰ってから呼ばれたくないため）。週1回程度当直があり、翌日は休みなくいつもの日常。休日も担当患者の回診をしなければなりません。研修医の分際で時間外勤務の申請などおこがましく、すべてサービス残業です（時間外勤務の申請があることすら知らなかった）。

今思えば過酷な労働環境だったと思いますが、患者がいる限り医師の責任であり仕方が無いと思っていましたし、研修医とはそういうものであり、先輩方もそうしていたので違和感やつらさはありませんでした。いわゆる過労死ラインの何倍も働いていましたが、まだ若く体力もあり、徹夜は学生時代に麻雀で鍛えたせいも楽勝でした。

今は、そんな働き方はやってはいけません。仕事量を減らす工夫として、他職種との分業（タスクシフト）、他の医師との分業（ワーキングシェア）がいられています。例えば、以前は医師が書いていた診断書は事務方に書いてもらい（医師が最終確認する）、また、主治医制を廃止しチーム制にすることで、当番を決めて、休日は休めるように、また当直明けは免除にするとかやりくりするようになりました。患者さん側からすると主治医がはっきりしない、いつも違う医師が来るのが不安と思われるかも知れません。欧米では自分の患者、自分の主治医という概念はなく、医師を指名することもないそうです。

とは言うものの、乳がんの診療は専門性が高く一般外科医が扱うのはなかなか難しく、乳腺外科医は少ないため代わりがないのが実情です。また、人対人の関係ですから、相性というものがあります。やってることが同じでも、話し方や態度、雰囲気が違うと不安になるものです。つまり、働き方改革は、単に労働時間を減らせばよいというものではなく患者さんの安心・安全を担保できなければできません。そのためにはもっと人材が欲しいところですが、外科医は年々減少傾向で医師の負担が大きく、ますます敬遠されるという悪循環になっています。

<お問い合わせ>

●りんりん携帯 090-6259-9205

 stinrin320@gmail.com